



普段お世話になっている方々をお招きして毎年秋に開かれる研修所の収穫祭。今年は、柿野浦で研修所生活を過ごし、現在も鼓童に在籍しているメンバーによる小公演をご覧くださいました。(11月13日)

根っこを活かす 研修所の目指すところ

研修所が柿野浦へ移った翌年、研修所の二年制が始動しました。太鼓をたたく、その根っこをまずしっかり培おうと。

それまでの研修期間は、一年間、ひたすら太鼓をたたく日々。それは、一九八五年の研修制度発足から十年あまり続いてきました。目指すところは、舞台で通用する、即戦力。

その「ひたすら太鼓」から、今度はじっくり「根っこを培う」スタイルへ。料理でいえば、いきなりメインディッシュをどんどん作ることに取り組むのではなく、まずは、ダシの取り方を工夫する時間、おいしいご飯の炊き方を試す時間、食材の野菜を自分の手で育ててみる時間…。そんな時間をしっかりと作れるようにしよう、というスタイル。

そのために、さまざまなスケジュールが組まれました。太鼓や踊りなどの稽古が全体のほぼ三分の二。残りの三分の一が、農作業、茶道、能、狂言、もの作り、佐渡についての講義、映画鑑賞、自由研究、祭りへの参加など…。これらを試行錯誤をしながらとり入れてきました。

研修生の目の前には、日々さまざまなメニューが並びます。いかに充実させても、反面、そこにはただ体験の連続で終わる危険性もはらんでいます。本当に目指したいのは、ただの体験で終わらせず、それを自分なりの太鼓、表現まで繋げていくこと。この部分が研修生ひとりひとりの課題であ

るとともに、研修所を担う私たちのこれらの課題でもあります。

そんなふうには、なるために…。

たとえば、こちらからメニューを提供しない時期がもつとあってもよいのかもしれませんが。例えば、今週はスケジュールが真っ白。自分たちで工夫することを、たっぷり感じてみる。稽古の方法なんて、自分でどれだけ工夫できるかが面白み。十試して、ひとつ当たりがあれば十分だと思いません。

このところ、答えをすぐに欲しがる研修生が増えたように感じます。「今の太鼓、どうでしたか？ 工夫してみましたか、良くなりましたか？」と。もっともっと分からない中でたくさんもがいて、自分なりの方法を見つけてよとすることを、忘れないようにしてほしいと思います。

そしてこれから。

ゴールは、自分が培ってきた根っこを活かして、太鼓でしっかりとものをいえること。舞台以外に目標がある人は、その場所ですっかりものをいえること。

そしていつ何時でも、すべてでも転んでも、研修所になければならないもの。それは、夢に向かう、懸命な姿。研修生にも、私たちに。

研修所所長 石原泰彦

研修所 柿野浦の10年

真野町大小研修所での最終年。研修生と中学生との交流公演スタート。(研修生11名のうち現在籍者：阿部一成、辻勝)

3月、鼓童文化財団設立。財団の設立と研修所2年制の始動を祝う会を一般の方もお招きして研修所で行った。2年制の発足とともにスタッフ志望の研修生の受入も開始。5月、大小研修所の食堂を老朽化に伴って取り壊した。(この年は2年制スタートの1年目のため修了者なし)



2002年度募集より25歳までとしていた年齢制限を廃止。18歳から32歳までの12名が入所した。(2年生5名のうち現在籍者：なし)

3月、佐渡島内の能楽愛好者の皆さんが毎年行っている佐渡囃子会に研修生も地謡で参加。研修所の中心的なカリキュラムである農作業を担当していた佐藤隆司が鼓童を離れる。岡田京子先生(唄)が10年ぶりに来島。研修生に遊び声や物売りの声などから日本音階の成り立ちをわかりやすく指導していただいた。民謡歌手の伊藤多喜雄さんによる唄の稽古。研修所にて「伊藤多喜雄スペシャルライブ・イン研修所」と銘打ち、地元の方達をお招きしてコンサートも行った。(2年生8名のうち現在籍者：喜内美和(スタッフ))

1995

(各年の研修生の人数は、その年の修了者数)

1996

両津市柿野浦地区の旧岩首中学校校舎に研修所を移転。1年制での最後の年。2年目の研修希望者1名を含む12名でスタート。4月、地域の皆様へご挨拶公演を行う。10月、佐渡島内の中学生との交流公演。12月マラソン大会。鼓童村から岩首までの42.195kmを走る。1953年のポストンマラソン優勝者・山田敬蔵氏が伴走で参加してくださいました。(研修生12名のうち現在籍者：松浦充長、堀つばさ)

1997

1998

酒蔵で酒造りの仕込みの様子を見学および体験。酒蔵で「酒屋唄」を唄わせていただく。4月、佐渡出身者1名を含む新研修生11名を迎え、2年生と合わせ19名の大所帯となる。2年生が春の祭りの稽古に参加し、鬼太鼓を打たせていただいた。研修所のグラウンドを会場に「第1回鼓童流音楽運動会」開催。5月、研修所の近くの田んぼをお借りして初めての田植え。6月、八重山舞踊公演の制作を研修生の手で行う。短期研修生1名を受け入れ。鼓童塾10周年を迎える。12月、研修生自身の企画により第1回収穫祭を開催。(2年生7名のうち現在籍者：土橋達也(スタッフ))

1999

太鼓、唄、踊りの他に、茶道、能、狂言、鬼太鼓などの芸能や、サンバ、農作業、祭り見学、駅伝など、様々なカリキュラムに取り組むことが少しずつ定着してきた。佐渡島外に出て、柏崎・木村茶道美術館の見学も行った。(2年生8名のうち現在籍者：船橋裕一郎、宮崎正美、渡辺薫)

2000

鼓童村で行う「佐渡あたりでバチあたり」公演のために来島された福尾野歩氏に加えて、佐渡國鬼太鼓座の設立に大きく関わった永六輔氏、島崎信氏、本間雅彦氏の3氏を講師に迎えての勉強会を研修所で開催し、研修生とメンバー全員でお話を伺った。(2年生6名のうち現在籍者：石塚充、砂畑好江、小田洋介)

2001

9月、アメリカで独特な音楽活動を行っているグループ、リズムミックスが企画した日本文化体験ツアー「リズムミックス・ワークショップ」を研修所にて受け入れ。日常空間に突然大人数の外国人がやってくるということで当初は不安もあったが、アメリカの太鼓グループの演奏を見ることが含めて研修生にとって異文化の空気に触れる貴重な機会となった。(2年生9名のうち現在籍者：阿部研三、谷口大介(スタッフ))

2002

2003

2004

2月、全国高校総合文化祭に10年連続出場を果たしている羽茂高校赤泊分校の郷土芸能クラブの皆さんと芸能交流。5月、日本自然環境専門学校校生の皆さんと研修生が鼓童村で交流。太鼓のワークショップや稽古の様子を見ていただくほか、鼓童村の森に入って植物や昆虫の調査を行った。(2年生8名のうち現在準メンバー：斎藤菜月、坂本雅幸、福田紳太郎、水原彰子、吉井盛悟、松井元(スタッフ))

柿野浦の研修所を巣立った研修生的人数は63名。2年制のカリキュラムを修了した人は51名。